

Title	日本で刊行されているアラビア文字入門書：アラビア文字教育に関する一考察
Sub Title	Arabic alphabet introductory books published in Japan : consideration of teaching Arabic letters
Author	榮谷, 温子(Sakaedani, Haruko)
Publisher	慶應義塾大学外国語教育研究センター
Publication year	2017
Jtitle	慶應義塾外国語教育研究 (Journal of foreign language education). Vol.14, (2017. ) ,p.43- 55
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	研究ノート
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20170000-0043">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20170000-0043</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 日本で刊行されているアラビア文字入門書

—— アラビア文字教育に関する一考察 ——<sup>†</sup>

榮 谷 温 子

## はじめに

アラビア文字は「みみず文字」などと呼ばれ、難解な文字のように思われがちだが、実際には28文字のアルファベットである。これに、正規のアルファベットに含まれない3文字<sup>(1)</sup>、母音等を表す補助記号などが加わるが、文字と発音の対応はほぼ1対1であり、決して複雑なものではない。しかし、その単純明快さゆえに、アラビア文字教育は、アラビア語教育の中であまり重要視されていないともいえる。

本稿では、日本で刊行されてきた主なアラビア文字入門書を検討しつつ、アラビア文字教育の問題点、注意点について考察したい。なお、アラビア語の入門書類にも当然、アラビア文字の説明が含まれているが、本稿で対象とするのは、アラビア文字のみに特化した書籍に限ることとする。

## I. アラビア文字を紹介している書籍

### 1. アラビア文字入門書

まず、アラビア文字の読み方や書き方を解説している入門書を挙げていく。

森&山形(1992)は、ナスフ書体(ローマ字でいえばブロック体のような書体)を活字で示して丁寧に説明し、学習者に活字をなぞらせて練習させるようにし、末尾にルクア体(ローマ字でいえば筆記体のような書体)の例なども添えてある。

飯森(1978)は、森&山形(1992)と異なり、手書き文字の例を豊富に提示し、ルクア体の例も多く挙げられている。具体的には、草書体の「練習」として、タイプライターで打たれた文とルクア体で書かれた文が並べて示されている。

アブドーラ(2006)は「手書きに近い書体を採用」(まえがき)として、Tahomaのフォントを用いている。簡単な挨拶等も文字練習のために取り入れている。練習に用いた単語や挨拶等を吹き込んだCD付きである。

本田&師岡(1996, 2006)は、著者の一人、本田氏が書道家であることもあり、「先端が斜

めにカットされたサインペンなどで書くと線の幅にめりはりが出てきれい」(p.18) であると述べ、実際、「先端が斜めにカットされたサインペンなど」で書かれたような、線の幅に変化のある字体<sup>(2)</sup>を、積極的に練習用に示している。パズル等を取り入れたナスフ体の説明・練習あとは、ルクア体やその他アラビア書道の説明もされている。

全体として見ると、飯森(1978)を除き、活字でアラビア文字を提示して、練習させる方式が多いと言える。

翻って、アラビア文字は、正規のアルファベットが28文字、それに含まれない文字も合わせると31文字であるが、独立形のほか、文字を繋げて書いた場合の頭字形・中字形・尾字形があるので、それらを合わせると、表示のために必要な文字形(glyph)は130となる(AbiFarés 2001:100)。加えて、カリグラフィの美しいアラビア文字の形を活字に写すには、後で述べる合字等のあるため、さらに膨大な数の文字形が必要である。

しかし、タイプライターのキーは43個しかなく、シフト・キーを用いても86個の文字形を区別するのが限界であり、このため、アラビア文字の活字は、カリグラフィとは別の形を追求することとなった(AbiFarés 2001:149)。つまり、活字というものは、その出発点から、手書きの文字とは異なる形を持たされたものである。これをお手本としてアラビア文字を教えることには、そもそも無理があると言える。

特に、活字では線の太さが変化するため、

- 1) 実際には円い部分(例えば mīm の文字)が角ばって見えたり、潰れて見えたりする。
- 2) 手書きで普通に用いられる鉛筆やボールペン等で書く文字と形が異なる。

といった問題が起きる。(榮谷 2011:134)

1) の mīm の文字の例を具体的に見ると、下記の図1が手書き文字で mīm の文字を3つ連ねて書いた形<sup>(3)</sup>である。図2は、左が Scheherazade<sup>(4)</sup>のフォントで、真ん中が Times New Roman、右が Tahoma だが、Scheherazade では、尾字形(語末に来る形、いちばん左)で円い部分が黒く潰れてしまっているし、Times New Roman では、円い部分が角ばっているうえ、尾字形で円い部分が閉じておらず、左端に切れ目ができている。アブドーラ(2006)で「手書きに近い書体」(まえがき)として採用された Tahoma フォントも、手書きと比べると、いくらかデフォルメされた形になってしまっているのがわかる。

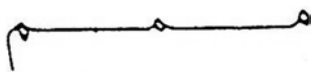


図1

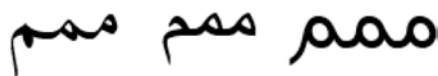


図2

その点、飯森（1978）は、手書き文字を多用しているが、出版元が既に廃業してしまっている。

本田&石黒、ナクシュベンディー（1997）の見返し部分は、線の太さの変化のない、手書きの書体をまとめている数少ない例であるが、文字入門書ではない。

アラビア語を外国語として学習する学習者が、アラビア語を読むときに目にするのは、多くの場合、活字であろうから、アラビア文字の読み方の説明に活字を用いるのは理にかなっている。これに対し、書き方のお手本として活字を用いるのは、上記のような事情から、不適切であるといえる。しかし、上述のとおり、この問題がなかなか解決されていないのが実情だ。

ただ、日本語によるものではなく、またナスフ体ではなくルクア体の入門書であるが、Wightwick & Gaafar（2005）は、徹頭徹尾、手書き文字でルクア体を教えている。サインペンで書かれたような、太さはあるものの書道作品のような装飾的なものではなく、一般人の手書き文字に極めて近い文字が提示されている。末尾には、ゲーム形式の練習や、標識や手書きメモを解読する練習も付されている。

## 2. アラビア文字紹介、アラブやイスラームの文化紹介

次に、アラビア文字そのものの説明ではなく、アラビア文字やアラブ文化、あるいはアラビア語圏以外の地域も含めたイスラーム文化の紹介に重点を置く書籍を挙げていく。

師岡（2002）は、アラビア文字の書き方の説明よりも、アラビア文字の実例を多く示すことに重きを置いている。CD付きである。

八木（2004）は、アラビア文字の説明もあるが、アラビア文字やアラビア語をとおしてのイスラーム世界の紹介が主となっている。

稲葉、こどもくらぶ（2015）は、インドやタイの文字とともに、アラビア文字やアラビア書道が紹介される。

Authentic な材料は、言語教育に有益であることは既に知られている<sup>(5)</sup>。

豊富な写真で、実際のアラビア文字を示す、師岡（2002）は、アラビア文字を読むことの練習に適しているといえる。写真に出てくるアラビア文字に関するクイズが毎回のように出題され、実際のアラビア文字を解読しようという動機付けになっている。同様に、上述の、本田&師岡（1996, 2006）の最後の章も、カイロの町歩きという設定で、実際の看板などのアラビア文字が、写真で多く提示され、それを活字で読みやすく書き下してくれている。エジプトの文化にも深く関わるテーマも取り上げられており、文化理解としても有効であろう。

アラビア文字の読み方の練習のために、こうした authentic な教材が増えていくことが望ましいといえよう<sup>(6)</sup>。

### 3. アラビア書道

一般的なアラビア文字教育からは、やや外れるかもしれないが、ここで、アラビア書道に関する書籍を見ておくこととする。

本田（2009a, 2009b, 2011, 2013, 2015, 2017）のアラビア語書道講座シリーズは、アラビア書道の六書体（ナスフ体、ルクア体、ディーワーン体、スルス体、ジャリー・ディーワーン体、ナスタアリーク体）を網羅した教科書である。講師に付いて習うことを前提とした教科書であり、これで完全に独習することは難しいようであるが、各書体を詳細に知ることのできるシリーズである。

本田（2006）は、書道作品集。イスラム歴史・芸術・文化研究センター（1996）は、The Research Centre for Islamic History（1990）の邦訳であったが、こちらは日本人書道家の本田氏によるオリジナルの作品集である。

ハーン（2004）は、Khan（2001）の邦訳で、各文字のさまざまな書体が示されている。書道作品も多く掲載されている。

大学等の通常の授業時間では、書道まで手が回らないかもしれない（そもそも、教えられる教師が少ない、あるいはほぼいない）。しかし、本式の書道でなくとも、ナスフ体、ルクア体くらいの学習の機会があれば、学習者にとっても得るものが大きいのではないだろうか。特に、ルクア体は、普通の手書き文字としてだけでなく、アラブ諸国で看板などに良く使われる書体である。ナスフ体しか知らずに現地に留学や旅行に赴き、看板類が読めなかったという経験談も聞く。

上述の、本田&師岡（1996, 2006）では、ルクア体の説明もかなり詳しいが、合字体の説明は十分とはいえない。

もちろん、最初から、ナスフ体だけでなく、ルクア体まで同時に教えるのは、学習者に負担がかかりすぎるだろう。そもそも、日本で外国語としてアラビア語を学ぶとき、いちばん目にするのは、教科書のナスフ体の活字であろうから、あまり早くからルクア体を教えるのは、その意味でも益がない。ある程度、学習が進み、ナスフ体に慣れたあとで十分である。

書道は、文字の正しい形を知る道である。また、書道のある程度学べば、後で述べる合字の問題などにも対処することができる。

## II. 文字の連なりを単語として認識すること

Kay (1997: 239) は、文字を同定する際のシステムについて、図3のようなモデル<sup>(7)</sup>を示した。

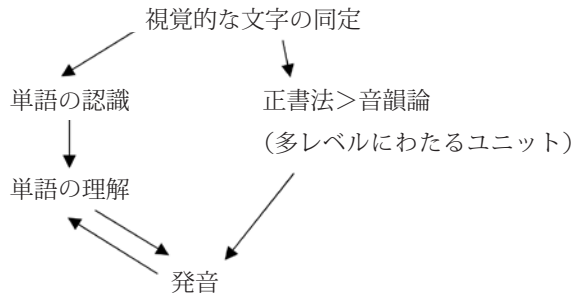


図3

この図式から、単語の理解のためには、文字形についての知識だけでなく、音韻論、さらには形態論など他のレベルでのアラビア語理解も必要になるといえる。文法や語彙の学習が進むことで、文字の理解も深まるのである。

Ganayim (2015) のアラビア文字の読みに関する研究にも触れておきたい。

Ganayim (2015) によれば、従来の研究では、読みにおける語の認識の過程について、分析的な処理（すべての文字を順番に読んでいく、非語彙的ルート）と全体的な処理（語の全体像で語を認識する、語彙的ルート）の2種類が支持されてきた。最も妥当と思われるのは、直列の二重ルートのモデルで、これは、読みの際に、2種類の処理ルートが同時に並行して機能するというものである。

もし文字が語彙的ルートで並行して処理されるなら、語の長さは語の認識に影響しないはずである。語の長さが影響するとしたら、非語彙的な処理の証拠となる。語が長くなれば、それだけ視覚的な認識は落ちるはずだからだ。

また、先行研究によれば、語間、字間、行間のスペースは可読性 (legibility) に影響する。例えば、字間のスペースは、広すぎれば語の統一性を損なうが、狭すぎても文字の認識を阻害する。アラビア文字に関する先行研究はわずかだが、すべての文字が繋がっている語の方が、語中に途切れのある語よりも処理しやすい、あるいは、すべての文字が繋がっている語や部分的に途切れのある語の方が、すべての文字が離れている語より正確に読まれる、という結果が出ている<sup>(8)</sup>。

というわけで、Ganayim (2015) は、文字同士が繋がった語と、語中に途切れのある語の読みを比較する実験を行なった。具体的には、アラビア語母語話者を対象に、

実験1 文字読みタスク

実験2 通常の単語を用いた単語読みタスク

実験3 視覚的に歪められた（繋ぐべき文字を繋がない、など）語の単語読みタスク

の3つであった。音韻論的エンコード・ストラテジーと視覚的要因（全体的語形、個々の文字の形、語中のスペース）の間の相互作用を実験するものである。

結果は、アラビア語の単語を読むのに掛かった平均時間は、語の繋がり具合に影響されているというものだった。というのも、読むのに掛かった平均時間は、文字の繋がった単語の方が、3文字単語でも5文字単語でも、語中で文字の途切れている単語よりも短かったのである。これは、語彙的なルート、つまり文字を文字列として並行して処理していることの活性化を反映している。

同様に、アラビア語単語の読み時間の平均は、単語の長さに影響されるとも言える。というのも、3文字単語の読みに掛かった時間の平均は、5文字単語のそれより短いのである。これは、文字列の文字を順番に処理するという非語彙的なルートの活性化を反映している。

Ganayim (2015) の実験でも、文字列を順に処理するルートと、語彙的なルートとが並行して用いられていることが明らかとなったことになる。

このように、学習者には、単に文字のみを覚えさせるのは効果的ではなく、語彙やその他文法的側面の学習と並行させた文字教育が望まれることは明らかである。

この点、上述のアブドーラ (2006) は、文脈を設定して、単語や簡単な表現などを提示しており（例えば、町なかという設定で、乗り物の名前やタクシーに乗るときの表現など）、語彙や表現の学習と、文字の学習を連動させる試みであるといえる。

また、アブドーラ (2006) や本田&師岡 (2006)、師岡 (2002) のように、音声 CD が付属しているのも、文字や単語とその発音を結びつけるために有益であろう。

### Ⅲ. 合字等の問題

最後に、アラビア文字の合字の問題がある。以下にいくつか、例を挙げる。

	基本的な 繋げ方	合字
b-m...	بم	بم
l-j...	لج	لج
l-m...	لم	لم
b-j...	بج	بج
m-j...	مج	مج

表1

合字になると、かなり形の変わるものもあることがおわかりいただけると思う。

学習者のレベルが上がって、authentic な書籍など（成人向けの印刷物だけでなく、小児向けの絵本にも使われていることがある）を読むようになると、こうした合字にも出くわすことになり、字形の判読ができないことから、読解に困難が生じる。

このように、文字教育は、字形の面から言っても、学習の初期段階で終わらせて良いものではなく、文法や語彙の学習と並行して、継続していくべきものといえるだろう。

#### おわりに

以上、アラビア文字教育をめぐる問題点や注意点を、アラビア文字入門書をとおして見てきた。

まず、アラビア文字教育は、語彙や文法的側面の学習と並行して行われることが望まれることが、認知の面からの先行研究からも明らかである。

次に注意すべきは、書き方のお手本として活字のアラビア文字を用いないことである。教師が学習者に対して、積極的に手書き文字を提示することが求められる。最初はナスフ体の手書き、次第にルクア体のコツを伝授（たとえば、2つの点は一本線で書くとか、ش س の書き始めの波型を直線で書く、など）していくのはどうだろうか。

さらに、文字の読み方の練習として、authentic な材料を豊富に与えることも大切である。そうした教材は、あまり多く出版されていないが、例えば、教師が現地に旅行した際に、アラ



ビア文字の看板等の写真を撮ってくる、新聞や雑誌を買ってくるなど、個人的な努力で補うことは十分可能であるだろう。

また、本格的なアラビア書道を、学習者に対して指導することは難しいにせよ、ある程度学習が進んで、ナスフ体にも慣れたら、手書きの書体ともいえるルクア体を教えることも望まれる。同じく、合字についても指導することが必要となってくる。

よって、例えば、

- 1) 最初期にアラビア文字のアルファベットを教える際に、読みの練習として、現地の看板や標識などの写真を豊富に提示する、
- 2) 次いで、文字を書く練習の際は、手書きのナスフ体も多く取り入れる、
- 3) 文字をバラバラに教えるだけでなく、単語やあるいは簡単な挨拶などの日常表現で練習をさせる。
- 4) 文法、語彙等の学習が進んできたら、ルクア体のコツを少しずつ教え、ルクア体にも少しずつ慣れさせていく。
- 5) 時間に余裕があれば、小出しにしてきたルクア体を、一度総、復習する時間をとって教える。

のような手順でアラビア文字を教えていってはどうか。

このように、アラビア文字教育は、基礎文法を教える前にアルファベットを一通り教えて終わりになるものではない。アラビア語そのものの学習の進み具合に応じて、文字教育も継続して行われていかなければならない。

注

- † 本稿は、日本アラビア語教育学会（2017年7月8日、於：アラブ イスラーム学院）における口頭発表「アラビア文字入門書について」に基づくものである。
- (1) 語尾にしか現れない文字や、後世になって付け足された文字である。
  - (2) アラビア書道では先端を斜めにカットした葦ペンや竹ペンを用いる。そのため、ペンの角度によって、文字の線の太さが変化する。
  - (3) 本田&石黒、ナクシュベンディー（1997）の見返し部分より。
  - (4) <http://software.sil.org/scheherazade/> で配布されている、ナスフ体のデザインのフリー・フォント。プリインストールされているものではない。
  - (5) 'authentic' という語は、「真の、真正の、本物の」といった意味を持つ形容詞である。外国語教育で用いられる場合は、語学教育のために作られたのではない、実際にネイティブ・スピーカーたちが使っている生の素材であることを意味する。authentic 教材の有益性については、山岡（2012：165）にまとめられている。
  - (6) Brustad et al. (2010) は、豊富な写真やイラストで、基本的なダイアログまで学べるつくりとなっている。DVD 付き、かつウェブサイトも連動している。
  - (7) これは失読症に関する研究である。
  - (8) アラビア文字は、通常、右から左へと文字を繋げて書かれる（例：b-y-t بيت「家」）が、6文字、左に来る次の文字と繋がらない文字がある。このような文字が語中に来ると、そこで文字の線は途切れてしまう（例：z h-r زهر「花」）。左の文字と繋がらない文字が連続すれば、もちろん一文字ずつバラバラに書くことになる（例：r's رأس「頭」）。

引用文献

一次資料

- Brustad, K., Al-Batal, M., & Al-Tonsi, A. (2010) *Alif Baa: An Introduction to Arabic Letters and Sounds*. 3<sup>rd</sup> ed. Georgetown University Press.
- Wightwick, J. & Gaafar, M. (2005) *Mastering Arabic script: A guide to handwriting*. (Palgrave Macmillan master series) Palgrave Macmillan.
- アブドーラ、アルモーメン（2006）『読める書ける アラビア文字練習プリント』小学館。
- 飯森嘉助（1978）『アラビア文字の書き方綴り方』泰流社。
- イスラム歴史・芸術・文化研究センター（1996）『イスラム書道芸術大鑑：その歴史と全時代にわたる珠玉の名品』（本田孝一 訳・解説）平凡社。（The Research Centre for Islamic History (1990) *Fann al-khatt*. The Research Centre for Islamic History, Istanbul.）
- 稲葉茂勝（著）、こどもくらぶ（編）（2015）『世界の文字の書き方・書道：世界の文字の書き方・アラビア書道』彩流社。
- 森伸生、山形洋一（1992）『アラビア文字の第一歩：読み方と書き方』国際語学社。

- ハーン, ガブリエル・マンデル (2004) 『【図説】アラビア文字事典』(矢島文夫 監修、緑慎也訳) 創元社.  
(Khan, G. M. (2001) *Arabic script: Styles, variants, and calligraphic adaptations – Translated from the Italian by Rosanna M. Giammanco Frongia, Ph.D.* Abbeville Press Publishers.)
- 本田孝一 (2006) 『アラビア書道の宇宙: 本田孝一作品集』白水社.
- 本田孝一 (2009a) 『アラビア書道講座: テキスト1 ナスヒー書体』日本アラビア書道協会.  
----- (2009b) 『アラビア書道講座: テキスト2 ルクア書体』日本アラビア書道協会.  
----- (2011) 『アラビア書道講座: テキスト3 ディーワーニー書体』日本アラビア書道協会.  
----- (2013) 『アラビア書道講座: テキスト4 スルス書体』日本アラビア書道協会.  
----- (2015) 『アラビア書道講座: テキスト5 ジャリー・ディーワーニー書体』日本アラビア書道協会.  
----- (2017) 『アラビア書道講座: テキスト6 ナスタアリーク (ペルシア) 書体』日本アラビア書道協会.
- 本田孝一、石黒忠昭 (編)、ヌールッディーン・ナクシュベンディー (協力) (1997) 『パスポート初級アラビア語辞典』白水社.
- 本田孝一、師岡カリマ・エルサムニー (1996) 『アラビア文字を書いてみよう読んでみよう: アラビア文字への招待』白水社.
- 本田孝一、師岡カリマ・エルサムニー (2006) 『アラビア文字を書いてみよう読んでみよう: CD付』(新装版) 白水社.
- 師岡カリマ・エルサムニー (2002) 『アラビア語のかたち』白水社.
- 八木久美子 (監修) (2004) 『イスラム世界の文字とアラビア語』世界の文字と言葉入門7 小峰書店.

#### 二次資料

- AbiFarés, H.S. (2001) *Arabic typography: A Comprehensive sourcebook*. Saqibooks.
- Ganayim, D. (2015) Visual Processing of Connected and Unconnected Letters and Words in Arabic. *Cognitive Linguistic Studies* 2:2, 205-238.
- Kay, J. (1997) Assessment of Acquired Disorders. 238-256, in J. R. Beech & C. Singleton (eds.) *The Psychological Assessment of Reading*. Routledge.
- 榮谷温子 (2004) 「アラビア文字およびアラビア文字の入門書における活字の問題とアラビア文字の習得」『外国語教育研究』7:17-32.
- 榮谷温子 (2011) 「アラビア語教育における文字指導」『外国語教育研究』14:131-138.
- 山岡華菜子 (2012) 「英語リメディアル教育でのオーセンティック教材の使用」『リメディアル教育研究』7:1, 165-175.

付録 1

主なアラビア文字フォント (Windows 対応)

「私の家はこの町にある。」をアラビア語で書いたもの。

フォント名	例	説明
Times New Roman	بيتي في هذه المدينة	一般的な活字体であるが、直線的であり、手書き書体とは乖離している。
Traditional Arabic	بنتي في هذه المدينة	手書き文字に近いが、合字が出力されるので、初心者にはよみづらい。
Tahoma	بيتي في هذه المدينة	まるくデフォルメされた書体である。
Simplified Arabic	بيتي في هذه المدينة	概ね、Times New Roman に近い。
Scheherazade	بيتي في هذه المدينة	注(4)参照。手書き文字に近いが、合字が出力されず、初心者の目にも優しい。

付録2

アラビア書道の主な書体 本田（2006：20）による。

バスマラ（慈悲深く慈愛あまねきアッラーの御名において）の例。

ナスフ体		アラビア文字の活字体
スルス体		クラーーンの聖句のための装飾的な書体
ルクア体		アラビア文字の手書き書体
ディーワーン体		オスマン時代に官庁で使われていた書体
ナスタアリーク体		ペルシアで発達した書体、別名ペルシア書体
ジャリー・ディーワーン体		ディーワーン書体をさらに装飾的にしたもの
クーファ体		幾何学的な書体

## 付録3

アラビア文字入門書一覧（Iの1で取り上げたもの）

	ページ数	大きさ	構成	用いている フォントや書体
森&山形 (1992)	131	A5版	ナスフ書体を活字で示し、末尾にルクア体の例などを添える。	(PCのフォントではない)
飯森 (1978)	69	A5版	ナスフ体も手書き文字で提示し、ルクア体の例も多く挙げる。	手書きと手動タイプライター
アブドーラ (2006)	111	B5版	文字練習から単語、さらに簡単な挨拶等を書かせる。CD付き。	Tahoma フォント
本田&師岡 (2006)	126	A5版	アラビア文字の書き方（ナスフ体）、手書き文字（ルクア体）、アラビア文字探索（市内散策の写真）。CD付き。	Scheherazadeに近いフォントや手書き文字